仙台駆け込み寺

No.03
2020年12月1日

いろは横丁相談室だより

ボランティア育成講座で玄さんが講演！

11月4日、仙台市青葉区ボランティアセンター主催で「地域のボランティア育成講座」が開催され、玄さんが登壇されました。
演題は「悩みを抱える人を支えるボランティアとは」。
参加者50名を前に、具体的な相談事例を挙げつつわかりやすく講演を行いました。



【私と駆け込み寺】

私はひとりでいるのが好きです。でもそれは家族や友人等と繋がり安心できる居場所があるからひとりでいても孤独ではないんだと駆け込み寺の相談員をして気が付きました。

相談の内容は様々ですが、相談者は問題の解決と共に心の繋がりを求めているような気がします。家族がいても自分の心を話すことができない。話をしても分かってもらえない。友人がいても本心を話すことが怖い。誰かに話を聞いてもらいたい。自分を理解し受けとめてもらいたい。安心して繋がれる場所を捜しているような気がします。

人は誰かと繋がらないと生きていけない。いろんな事情で孤立し不安をかかえて相談に来られた方、電話をかけてこられた方に対し「仙台駆け込み寺」に来てよかった。電話してよかったと細い糸でも繋がったと安心してもらえたらと思っています。

相談にこられた方が帰った後、電話を終えた後、いつも「もっと聞いてあげればよかった。こう言ってあげればよかったと」と反省ばかりです。「一期一会」でやり直すことはできないので、繋がろうとした人を切らないようどんな人でもしっかり受けとめられるような人になりたいと思っています。

相談員　M・Ｉさん

2020年11月
ボランティア参加人数　のべ「71名」
寄付金＋募金　4,153円
ありがとうございました！

河北新報に大きく掲載されました



河北新報
2020年(令和2年)11月10日(火曜日)

悩み相談 仙台駆け込み寺

壱弐参横丁に新拠点

コロナ下 苦境と向き合う

東京・歌舞伎町で、家庭内暴力や借金、自殺願望などの相談に応じている公益社団法人「日本駆け込み寺」の仙台支部「仙台駆け込み寺」が9月、仙台市青葉区の壱弐参横丁の一角に、新たな活動拠点を設けた。東日本大震災の被災者支援をきっかけに、さまざまな相談に応じてきた同支部は、新型コロナウイルスの感染拡大により、孤立を深める人らの支えにもなっている。

同支部は2012年7月、東京の駆け込み寺に、震災の被災者から多くの相談が寄せられたことを受けて発足した。運営の柱になっていた民間の補助が終了し、17年に法人支部としての活動を一時休止。その後はボランティア50人以上が交代で電話や対面で相談に応じていた。

関係者によると、新型コロナの感染拡大で人間関係が希薄になり、悩みを抱えるケースが目立つという。織笠英二支部長(66)は「友人や知人と接点が少なくなり、1人で悩みを抱え込んだ人が助けを求めるケースが生じている」と言う。

9月には、金銭や家族にまつわる悩みなど71件の相談があった。過去には、職や住まいを失い、着の身着のままで駆け込んできた人や「死ぬために仙台に来た」と話す県外からの相談者もいたという。

織笠支部長は「誰かに話すことで気持ちが楽になることもある。深刻な事態にならないうちに、気軽に相談してほしい」と呼び掛ける。

午後1～4時。電話で予約すれば、時間外も対応する。男性の対面相談も事前の申し込みが必要。水曜定休。連絡先は070（4060）9862。

飲食店が立ち並ぶ横丁の一角に開設された「仙台駆け込み寺」

11月の相談状況

【相談内容別】

・ＤＶ	0件
・お金の問題	5件
・ストーカー	0件
・家庭内暴力	9件
・家庭内問題	3件
・心の問題	8件
・仕事の問題	5件
・住宅問題	7件
・病気の問題	1件
・いじめ問題	1件
・その他問題	0件
合計	39件

【年代別】

・10代	0件
・20代	13件
・30代	0件
・40代	15件
・50代	4件
・60代	1件
・70代	1件
・不明	5件
合計	39件

【男女別】

・男性	11件
・女性	28件
合計	39件